

平成 26 年度第 2 回 首都圏地域コア運営委員会 開催報告

- 日時 平成 26 年 11 月 25 日（火） 15:00～17:00
- 場所 電気通信大学産学官連携センター 2階 215会議室
- 出席者 11名（企業関係者 5名、大学関係者 6名）
- 議題 電気通信大学からの情報提供、「平成 26 年度地域フォーラム」開催報告、
本事業「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士と地域再生」において
「首都圏地域コア」にて本年度取り組むべき課題と目標の確認
- 報告、説明、意見交換等
 - 電気通信大学からの情報提供として、研究開発セミナー「高齢化対策に向けた現状認識」（12月5日開催）、Unique & Exciting Research Symposium ～研究力評価の改革に向けて～（12月8日開催）、研究室紹介ツアー（12月5日開催）の紹介を行った。
 - 平成 26 年度地域フォーラム「全国連携による地域人材育成～それぞれの地域産業活性化のために～」の開催報告を行った。
 - 「共同研究希望ニーズ・シーズ紹介用紙」について、電気通信大学から他大学へ紹介するものについて説明を行った。また、他大学からも同様のニーズ・シーズが送られてくるため、首都圏地域コア参加企業についても紹介したいニーズ、詳しく知りたいシーズがあれば是非参加していただきたい旨の説明を行った。
 - 産業がほとんどない地域もある。企業からのニーズについては、電通大優先で探索をしたらどうだろうか。大学のシーズに関しても、地域に話を送る前にもっと首都圏内で探索を行えば、マッチング先が見つかるのではないだろうか。
 - ニーズ事例 2 件目のバイオマス系テーマは秋田等地域とマッチングしやすいのではないかと。
 - イノベーション博士を作るのが一番大きな目標であり、そのために共同テーマを作りたいと理解している。そのためのスーパー連携大学院の共同研究と、通常共同研究とどう違うのか。→ 企業側の意向によって使い分ければ良い。企業側に人材育成の意識があれば、スーパー連携大学院の共同研究としてご協力いただき、単に共同研究成果が欲しい場合には通常共同研究として扱う。
 - シーズニーズ公開のフォーマットについては、開示条件をもう少し細かくしたほうが良いのではないかと。またこの程度の情報量の場合、個別に細かく質問される可能性がある。
 - シーズニーズ情報については、各大学から収集して地域コア間で回覧を行う予定である。電通大としては、産業が薄い地域の大学の産学連携に貢献できれば、と考えている。
 - 企業は相手の教員のタイプによってやり方を変える。完全な基礎研究には資金を出さない。また良いシーズは、地方の小さい大学からも見つけてくる。
 - A 案「企業ニーズに基づくオープンイノベーション型マッチングセミナー」、B 案「大学シーズ紹介型マッチングセミナー」について説明があった。本日欠席の高木委員からは、

オープンイノベーションセミナーを行うなら企業側はマッチング効率を求めるとの意見があった。また、スーパー連携大学院プログラムの受講生研究発表である「研究プロポーザル審査会」とのコラボレーションの可能性について説明を行った。

- 共同研究を考えると、プロポーザル審査の内容よりは、ポスターセッションのほうがマッチングしやすいのではないか。
- M1 の学生をメインのターゲットとしている。博士課程に行くような学生の、長期インターンシップ先などがマッチングできればよい。すぐ共同研究に結びつかずとも、研究室と企業のパイプを作ればよい。
- 学生へ給料を出すタイプの共同研究なら、企業も本気になる。理想的なモデルとしてもっと打ち出したい。
- 首都圏地域フォーラムについて、B 案を基本として M1 の学生を中心に、3 月頃開催することとなった。
- 住友電工の人材育成基金について、電気通信大学が申請し採択をされたことの報告があった。